

甲斐市立敷島北小学校 自己評価書（前期）

平成25年7月19日 作成

校長 廣瀬 文武

記述者 職名（教頭） 河西 慶仁

学校教育目標 「ともに学び ともに生きる 心豊かな子どもの育成」

- 知育 ・よく学び、よく考える子ども
- 徳育 ・思いやりのある子ども
- 体育 ・健康でたくましい子ども

学校経営方針

※基本：教師個々の資質・能力の向上と連帯と信頼による組織力の発揮

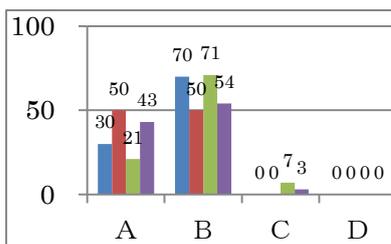
- 1 全職員が常に学校目標を意識するとともに、めざす「子ども像」「学校像」「教師像」を念頭に置き、その具現化に向けた教育実践に取り組む。
- 2 明確なビジョンを持ち、目標に向かって確実な取り組みを展開する。
- 3 P D C Aサイクルを生かし、課題を明らかにして大胆な工夫や改善をしながら、より質の高い教育活動を構築する。
- 4 意欲的に研修・研究に取り組み、専門職としての資質能力の向上に努める。
- 5 特色ある学校づくり、信頼される学校づくりの実践に努める。

1 全体評価

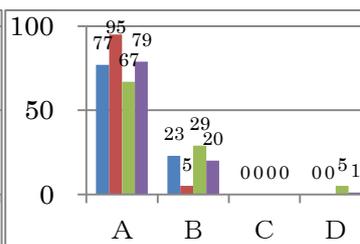
【教職員の自己評価から】

・前回同様ほとんどの項目でA又はB評価であり、C・D評価がついたのは3項目（IV 3「キャリア教育を行っている」、IV 5「職員間で生徒指導上の課題を共有した対応が行われている」、VI 3「積極的に読書活動に取り組むよう指導に努めている」）であった。前回の調査ではC評価が2項目にあり、昨年前期においてもC評価は4項目であったので、今回も取り組むべき課題が数値として表れた。

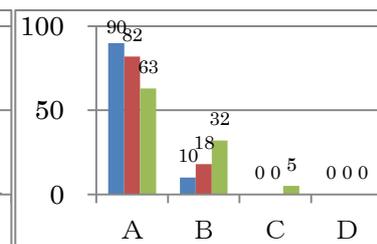
IV 3



IV 5



VI 3



凡例

前々回
前回
本校職員
市全体

平成24年 6月実施

平成24年 12月実施

平成25年 6月実施

平成25年 6月実施

A：そう思う

B：ややそう思う

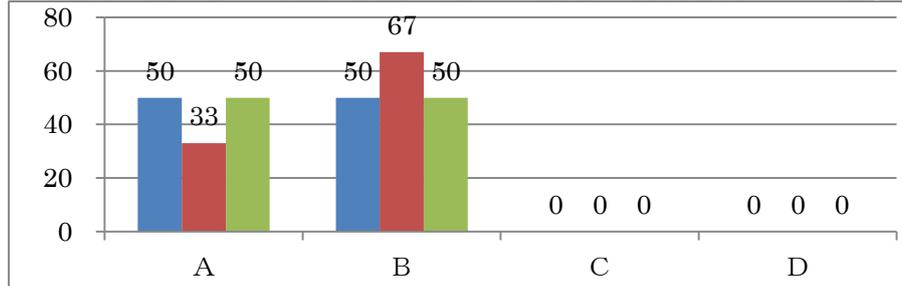
C：ややそう思わない

D：そう思わない

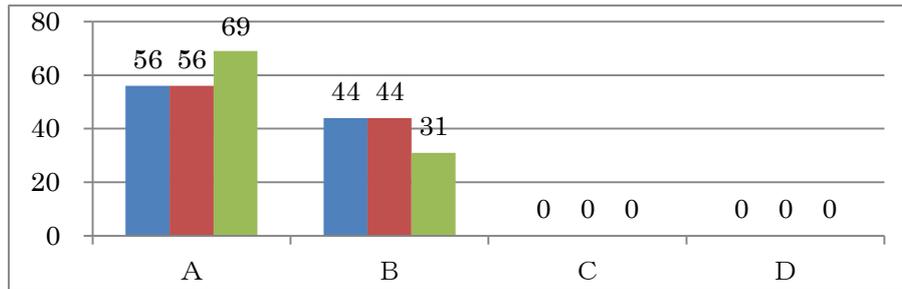
・A評価が10ポイント以上向上した項目数は、全51項目中2項目で、反対にA評価が10ポイント以上下がったのは、22項目もあった。

具体的に項目を見てみると、向上した項目は、

Ⅲ 9 「年間計画に基づき、児童の実態に応じて道徳の授業を行っている」 (+ 1 7)



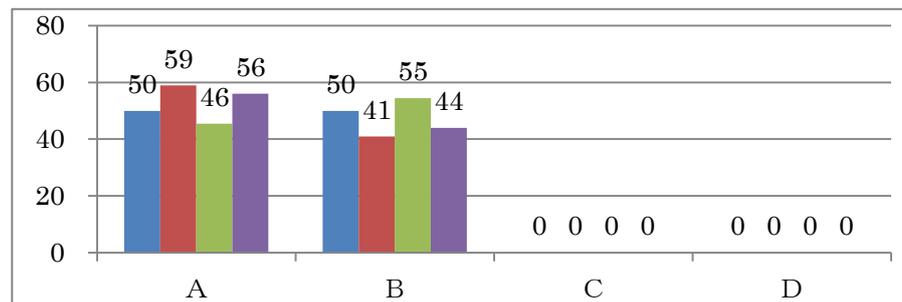
Ⅳ 7 「日頃から家庭との連携が十分図れるように努めている」 (+ 1 3)



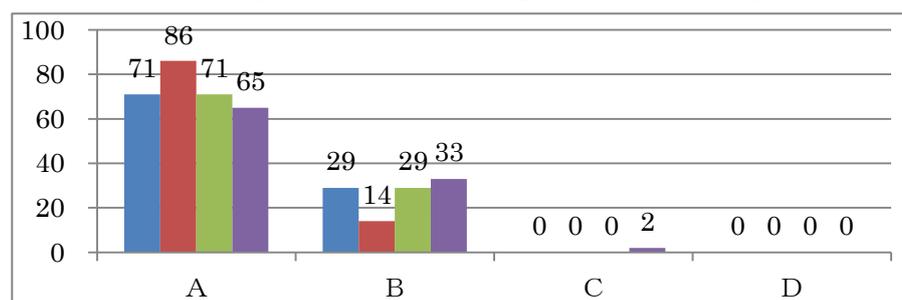
であった。

逆に、下がった項目を見ると、

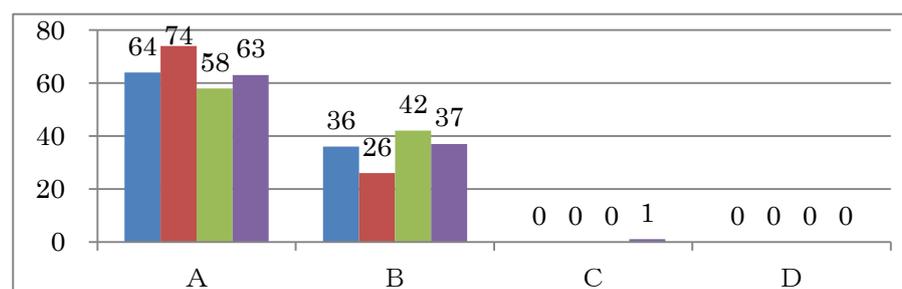
Ⅰ 6 「P→D→C→Aサイクルを生かした教育活動を行っている」 (- 1 3)



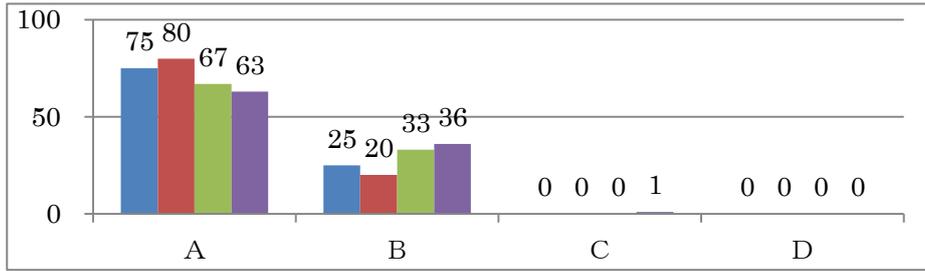
Ⅰ 7 「職場の福利厚生や健康管理について配慮がなされている」 (- 1 5)



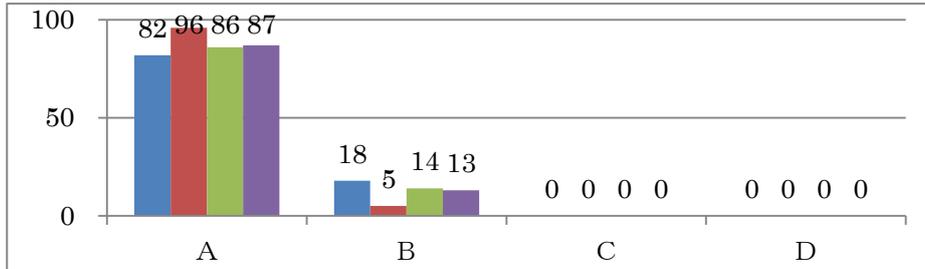
Ⅱ 4 「校務分掌は、学校運営上機能している」 (- 1 6)



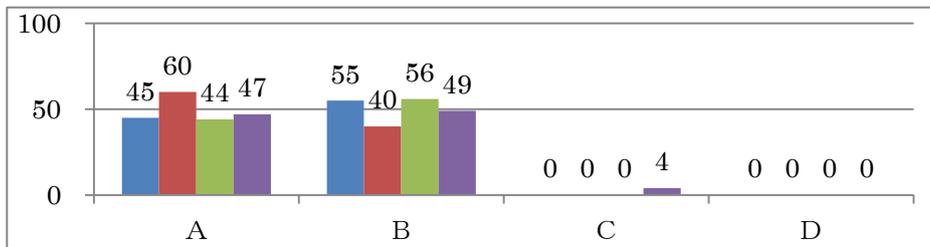
Ⅱ 5 「職員会議に積極的に関わっている」 (- 1 3)



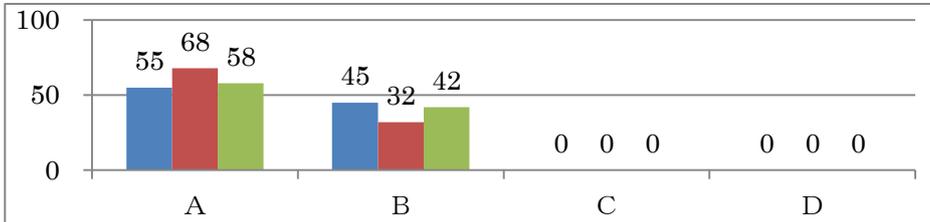
Ⅱ 7 「職務上『報告・連絡・相談』を行っている」 (- 1 0)



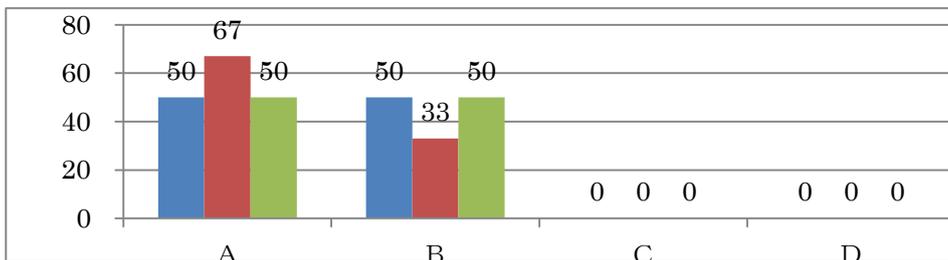
Ⅱ 8 「校内研究（研修）に主体的に関わっている」 (- 1 6)



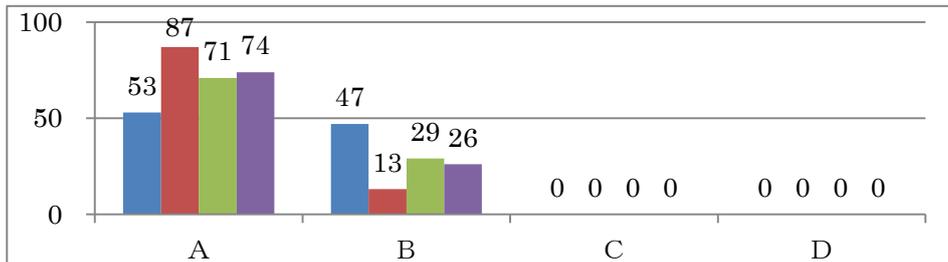
Ⅱ 9 「自らの分掌の課題を明確にし、改善に向けた取り組みに努めている」 (- 1 0)



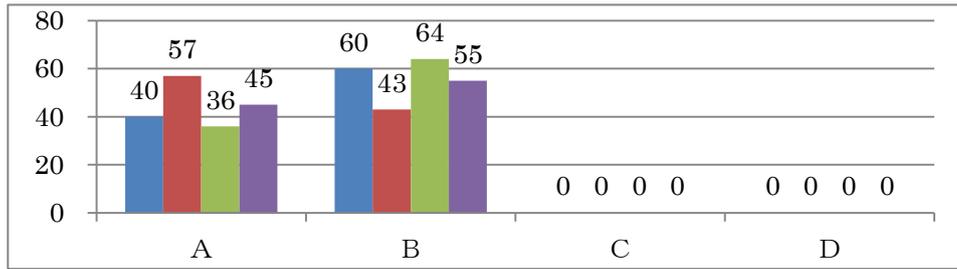
Ⅱ 1 0 「特別支援教育の校内体制を理解し、機能的に行われるよう協力している」 (- 1 7)



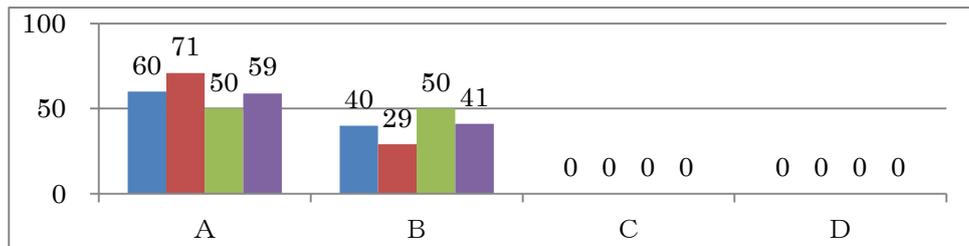
Ⅲ 1 「民主的で規律ある学級・学年・学校集団づくりを行っている」 (- 1 6)



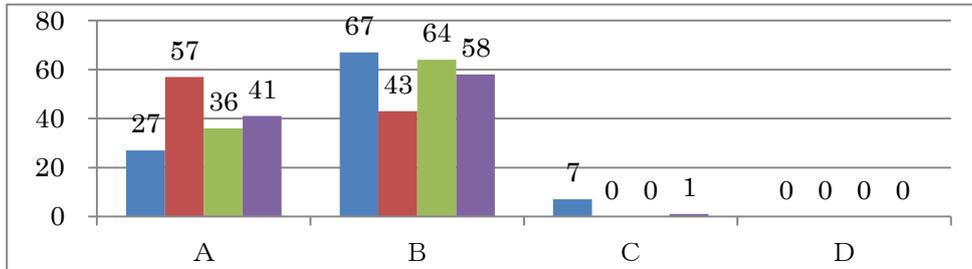
Ⅲ 2 「児童生徒の学びの意欲を喚起する授業を行っている」 (- 2 1)



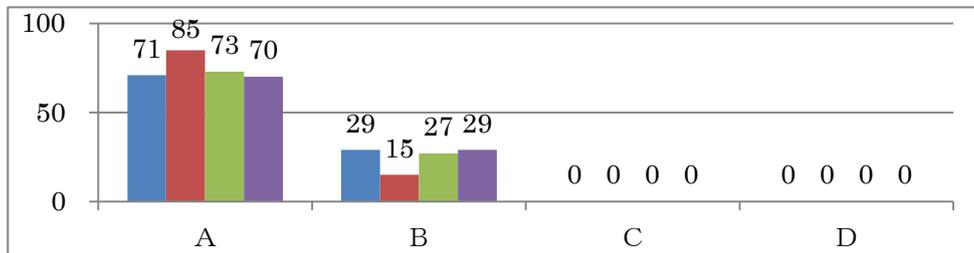
Ⅲ 4 「個に配慮した授業を行っている」 (- 2 1)



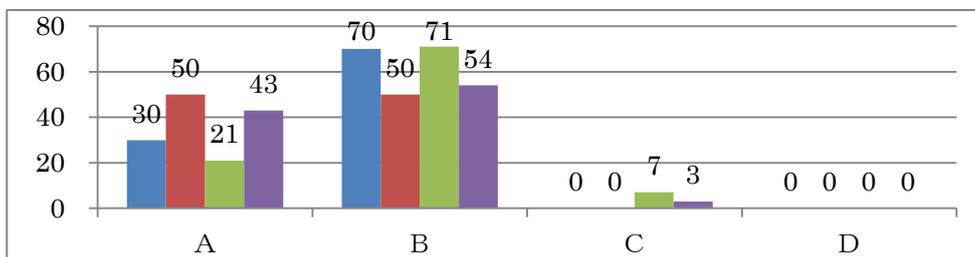
Ⅲ 7 「質問や発言が出てくる授業を行っている」 (- 2 1)



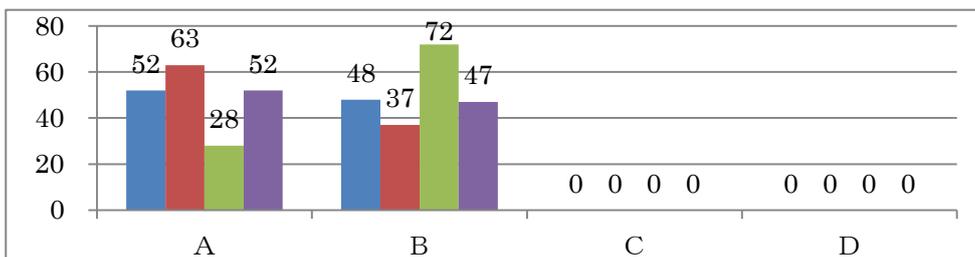
Ⅲ 8 「宿題や家庭学習に対する指導を行っている」 (- 1 2)



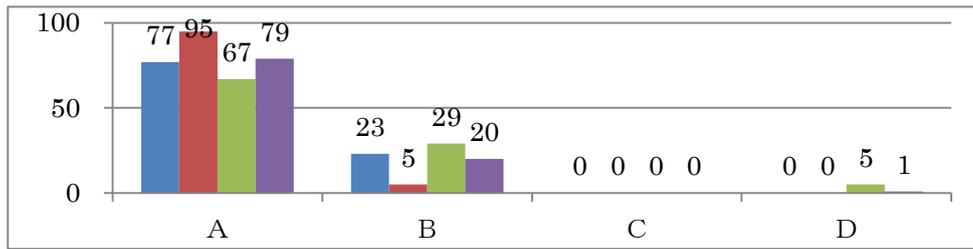
Ⅳ 3 「キャリア教育を児童生徒の実態に応じて行っている」 (- 2 9)



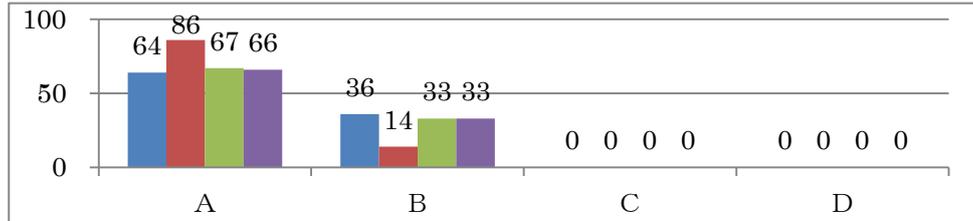
Ⅳ 4 「問題行動の早期発見・早期対応ができていない」 (- 3 3)



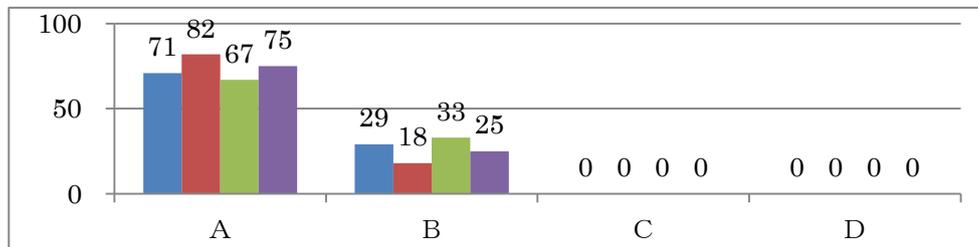
IV 5 「職員間で生徒指導上の課題を共有した対応が行われている」 (- 2 8)



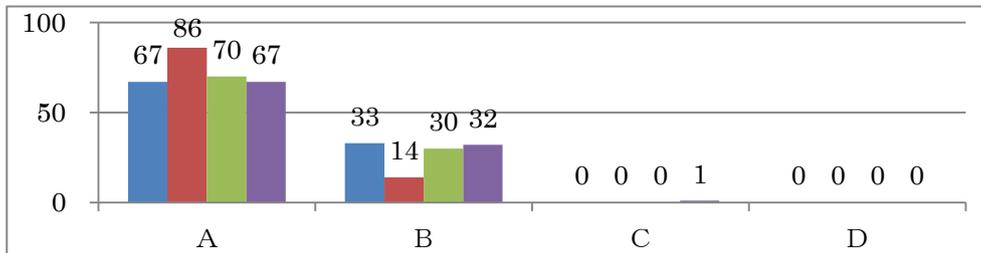
IV 6 「学校・保護者・地域及び関係機関との連携が図られている」 (- 1 9)



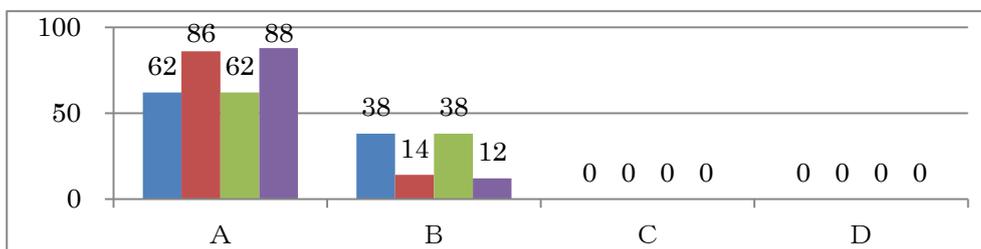
V 6 「地域・保護者は、児童生徒の安全確保に努めている」 (- 1 5)



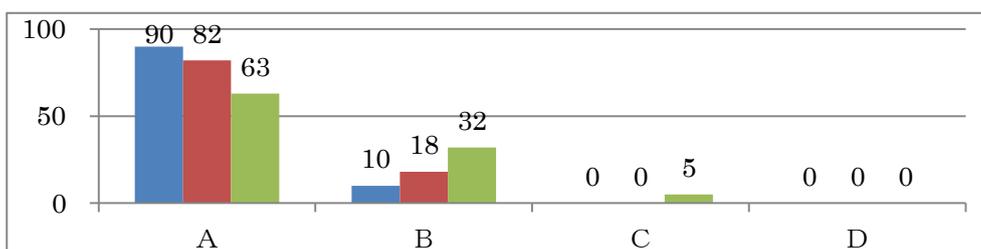
V 8 「学校評議員制度や学校関係者評価委員会の話し合いの結果が学校教育に活かされている」 (- 1 6)



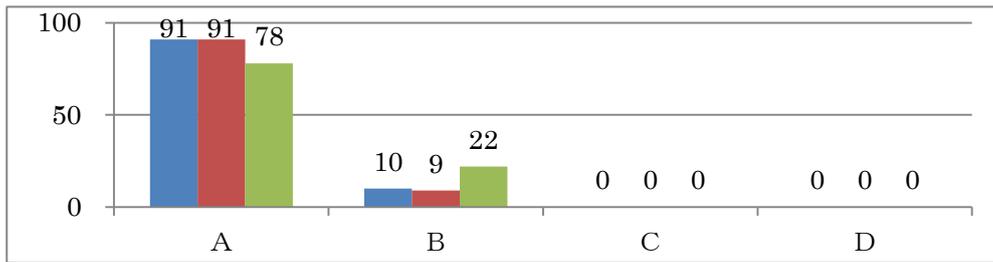
VI 1 「児童生徒が進んで挨拶をするよう、指導に努めている」 (- 2 4)



VI 3 「児童生徒が積極的に読書活動に取り組むよう、指導に努めている」 (- 1 9)



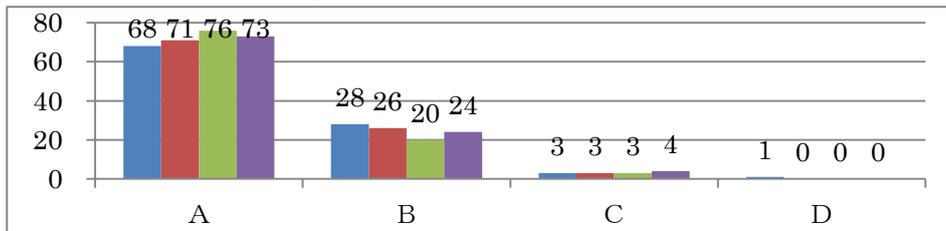
VI 4 「学校行事に児童生徒が進んで取り組むよう、指導に努めている」 (- 1 3)



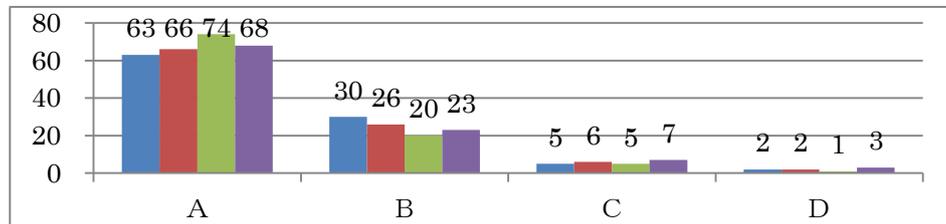
となっており、教職員の異動は少なかったものの、教職員間の意思疎通が十分ではなかったと思われる原因で評価が下がっている項目があった。特に「危機管理」、「生徒指導」、「キャリア教育」及び「ALTの活用」に取り組むべき課題があることが明らかになった。ただし、A・B評価を合わせると、前回とほぼ同じ割合になることから、明らかにA評価に付けるには自信がないが、ほぼ「よい」という判断が下されているものと思われる。さらにこれからの取り組みを大切にしたい。

【児童アンケートから】

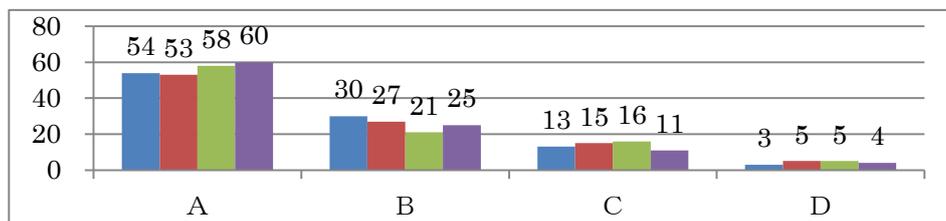
- ・前回よりA評価が+5ポイント以上上がったものは4項目あり、
2「仲良く遊ぶ友だちがいる」(+5)



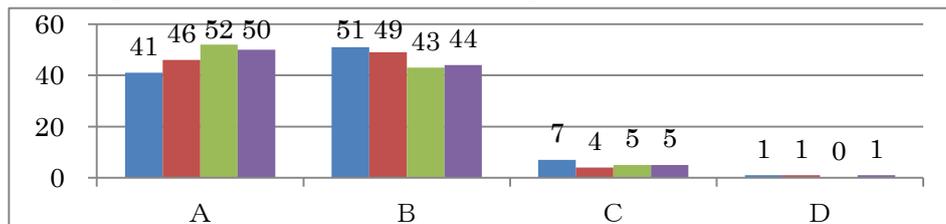
1 1 「宿題を忘れずにしている」(+8)



1 3 「家の人と学校での様子を話している」(+5)



2 0 「学校のきまりや約束ごとが守れている」(+6)

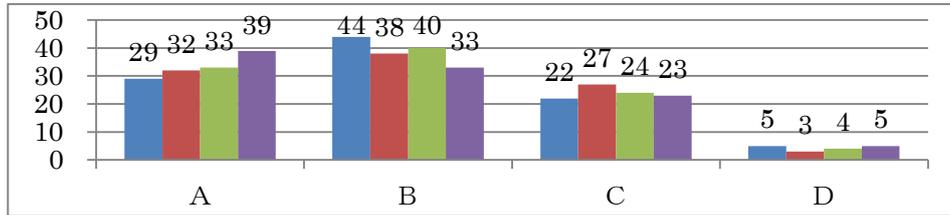


であった。

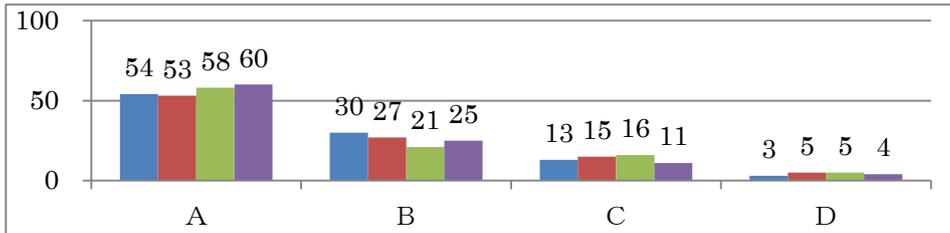
- ・前回との比較で、A評価が5ポイント以上下がった項目はなかった。

・数値的に改善されてはいるが、C・D評価の割合が高い（C＋D：20%以上）項目は、

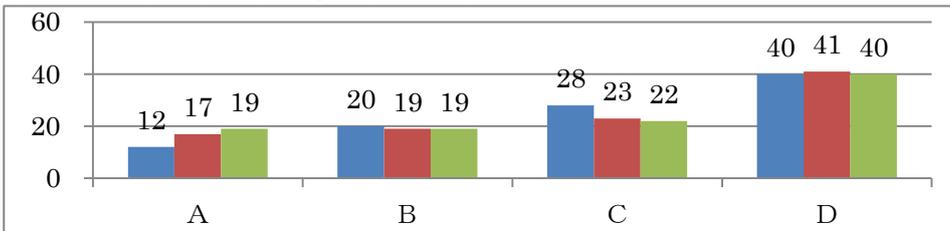
10 「授業中に質問や意見を言う」（28%）



13 「家の人と学校での様子を話す」（21%、A評価は5ポイントアップ。）



25 「親子で一緒に本を読む」（62%）

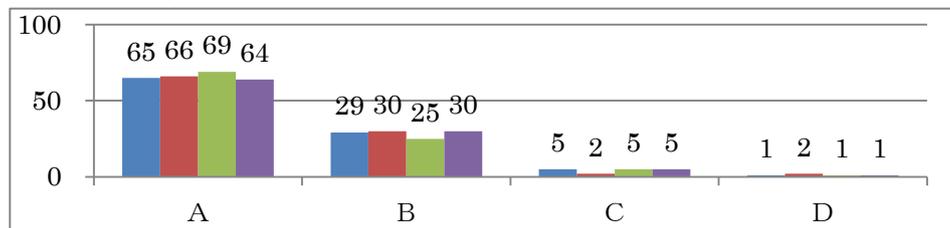


という結果からは、自分の思いや考えを公表（表現）する自信がない子が比較的多いという本校の実態が浮き彫りになった。また、家庭での親子のふれあいの時間が少なくなってきたこともうかがえる。これらの項目は、昨年度から取り組んでいる校内研究のテーマにも関わることであるので、引き続き、研究や実践を積み重ねていかなければならない。

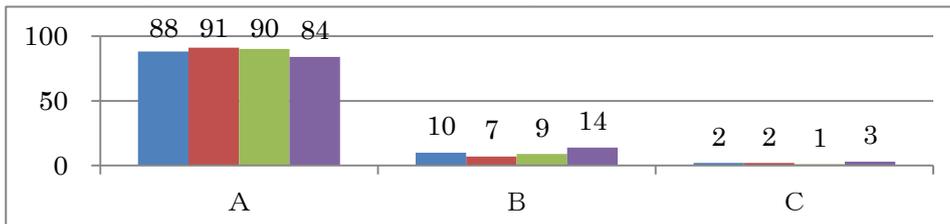
・児童のアンケートは、今年度から新しくなった設問がいくつかあるため、前回（前々回）との比較ではなく、市全体との比較もして考察を行った。結果については、市全体との比較でA評価が多かったものは、全27項目中11項目で、低かったのは8項目であった。

・市との比較でA評価が5ポイント以上上回った項目は、

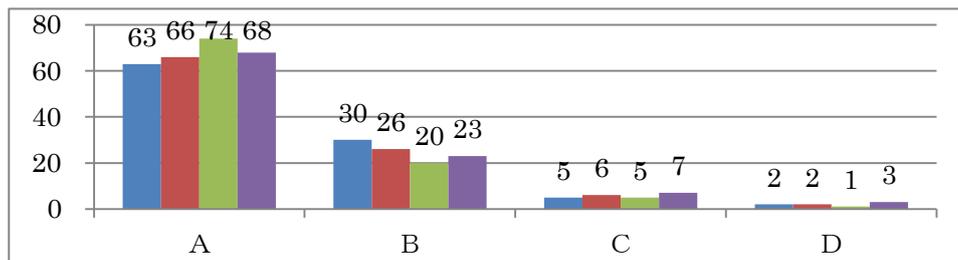
1 「学校が楽しい」（+5）



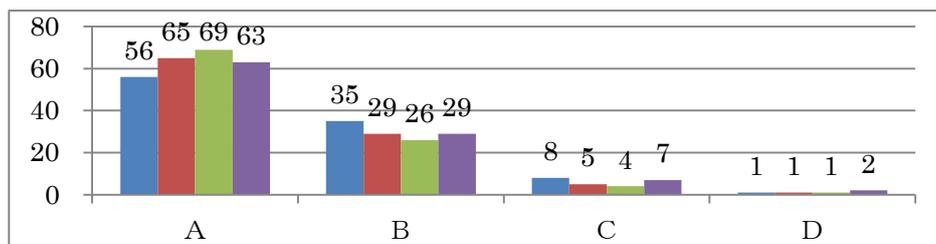
3 「こまったときに相談できる友だちがいる」（+6）



1 1 「宿題を忘れずにしている」 (+ 6)



1 7 「地域の人に出会ったらあいさつをしている」 (+ 6)



であった。

特に、「宿題」については、一昨年度から本校では、「家庭学習のてびき」を作成・配付し、家庭の協力を得ながら取り組んできた項目である。また、「あいさつ」も数年来本校の努力目標だった項目であるので、今後も定着するように取り組みを続けていきたい。「学校が楽しい」の高評価は喜ばしいが、C・D評価の児童も少数だが存在するという事実を重く受け止めなければならない。

2 項目ごとの評価結果（達成状況・改善策）

I 学校教育目標に関して・学校経営について

II 学校運営について

達
成
状
況

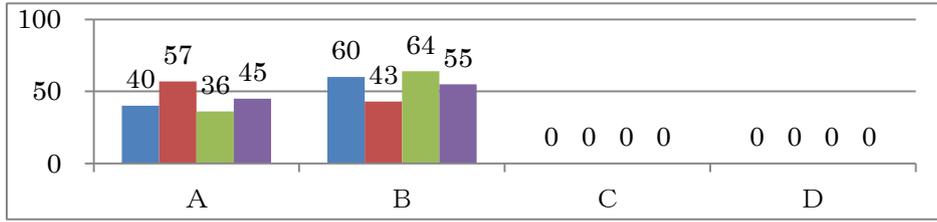
- ・学校長から本校の実態を踏まえ、学校教育目標の提案が行われた。校長の経営方針の下、充実した教育活動が行われている。
- ・新年度、各自新しい校務分掌でスタートした。1学期は、学校運営上自分の分掌がどのように機能しているか、確かめながらの教育活動であり、それぞれの役割が不明確な部分も見られた。
- ・職員会議に関しては、職員の異動が少なかったせい、それぞれの提案に対して新鮮味に欠け、消極的（受け身）になった傾向があり、それが職員間の共通理解の不足や低い評価につながったと思われる。
- ・昨年度に引き続き、防災（防犯）マニュアルを策定し、「非常変災マニュアル」も各家庭に配布してあるが、災害に対する教職員の意識は低くなってきていることが、浮き彫りになった。

改
善
策

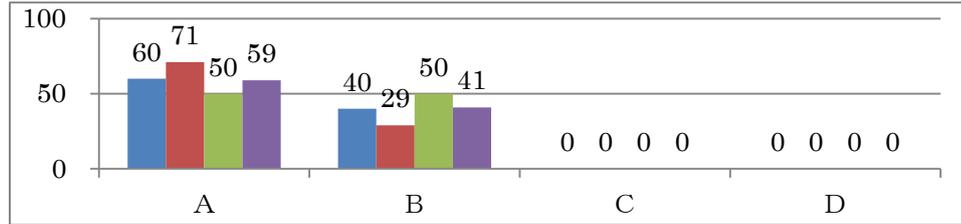
- ・年度末の人事異動は、ほとんど異動がなく、4月から順調にスタートすることができた。使命感を持って意欲的に職務を果たそうとする職員が多く、職員全員で学校教育目標の共通理解を図り、教育活動が行われてきた。今後は、個々の役割を一層明確にし、職員会議だけではなく、朝礼や終礼の機会を利用し、職員間の連携を図りながら学校運営をしていく。
- ・PDCAサイクルの実行に関しては、各行事等の終了後にアンケートを実施し、課題を明確にした上で、次回の計画に生かすよう努める。

Ⅲ 学習指導について（児童用アンケートの結果も含めて）

達成状況
・教師の自己評価Ⅲ 2 「学びの意欲を喚起する授業」については、「A・B評価」の合計は100%だが、積極的に行っているという「A評価」の割合が下がってきている。

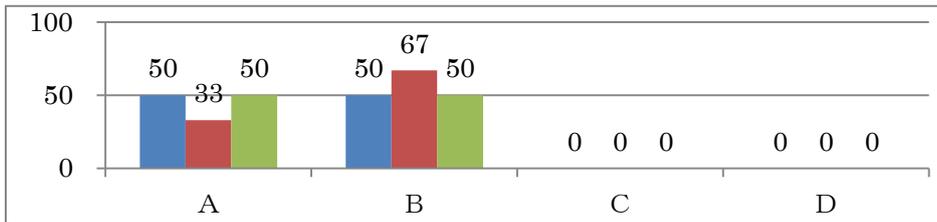


Ⅲ 4 「個に配慮した授業」についても、ほぼ同様な傾向がうかがえる。



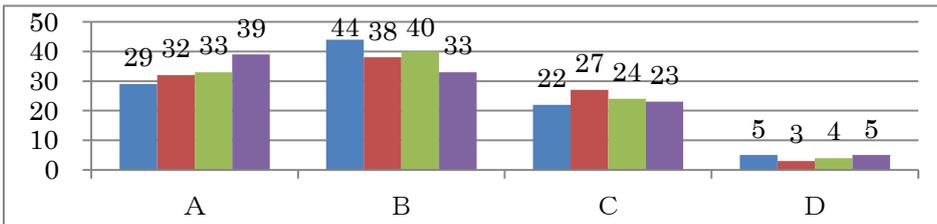
達成状況
2つの項目とも、「A評価」が市の平均より上回るような積極的な取り組みが望まれる。
・Ⅲ 9 「年間計画に基づき、児童の実態に即して道徳の指導を行っている」が前回は「17ポイント」上回っており、指導の改善を常に行い、常に意識を高く持っていることが表れている。

Ⅲ 9

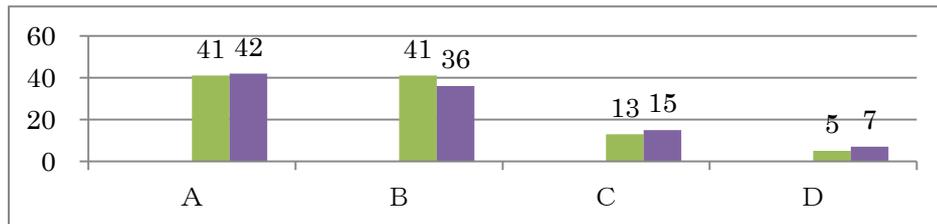


・児童のアンケート結果、10 「質問や意見を言っているか」の項目は、以前から本校児童の課題だと言われ続けてきた。相変わらずA評価の割合は、市の平均を下回っている。

10



・児童の12 「学年の目標時間の勉強をしているか」を見ると、本校児童の場合、「A」と答えた子の割合は、市全体よりも若干少ないが、「B」と合わせると、市よりも4ポイント高かった。C+Dの割合は18%であり、今後も、「D」と回答した5%の児童の指導が引き続き必要になる。



改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の場面や学校生活全般においても、本校児童は、積極性に欠けると言われてきた。そこで、ここ数年、校内研究でも取り組み、授業では「自分の考えを発表する機会を増やし、子ども達の考えを引き出す」ことに重点を置いている。「継続は力なり」の言葉のとおり、日々の授業の積み重ねで児童が向上的に変容することを願っている。また、校内研究のテーマに「豊かな表現力の育成」を掲げ、全職員で基礎・基本の充実をもとにした表現力の育成を目指している。 ・一昨年度の学校評価の結果（家でまったく勉強をしない児童が7%存在し、約4割の子が家での学習時間が30分未満）を受けて、学校全体として「家庭学習」の定着を目指す取り組みを始めた。今年度も職員会議で共通理解を図り、学年の目安として、学年×10+10分くらいの家庭学習の時間を設定している。年度の初めに「家庭学習の手引き」を全児童・全世帯へ配布した。取り組みを始めて3年目だが、家庭学習の「学年の目標時間」を8割以上の児童が達成している。反面、「D評価」の児童も5%おり、今後とも家庭と連携して指導を継続し、この項目の結果を見守っていききたい。
-----	---

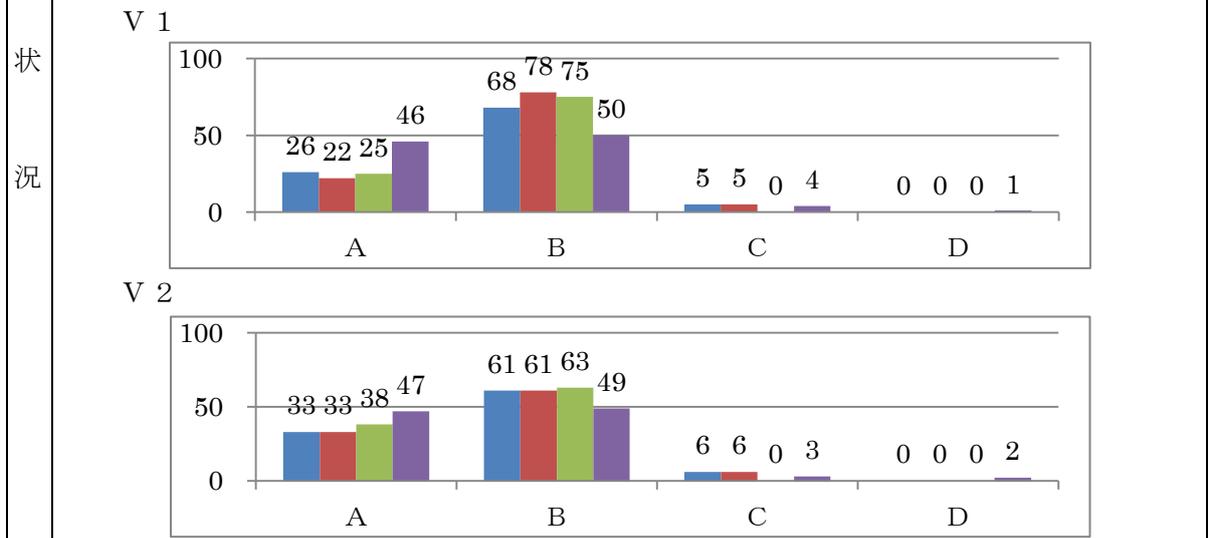
IV 生徒指導について（児童用アンケート結果も含めて）

達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・「生き方教育（キャリア教育）」については、A評価が市全体の結果よりも低い。自信を持って取り組めるようにする必要がある。 ・「問題行動の早期発見・早期対応」及び「職員間で生徒指導上の課題を共有した対応」については、市全体と比べるとA評価が低い。
------	---

改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・「キャリア教育」については、常に全体計画を意識し、学校教育全体で行われるようにしたい。 ・家庭や関係機関との連携が図られるよう、情報を整理し、生徒指導部会や特別支援教育校内委員会等で組織的に対応していく。
-----	--

V 地域との連携について

達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との連携の項目では、V3「たよりやHPを通して広報している」について、自己評価ではA評価が90%に近い高い評価であった。ここ数年、HPをこまめに更新していることを評価した結果である。 ・V1「地域の人材や施設を活用し、地域の教育力を生かす指導を行っている」とV2「学校に対する要望や意見を聞く機会や情報収集を行っている」の項目で市全体と比べると、「A評価」が少なく、教師の自己評価からは、地域や家庭との連携のもとで指導しているという実感が薄いようである。学校内の分掌や立場の違いから、このような自己評価結果になっているものと思われる。
------	---



改善策

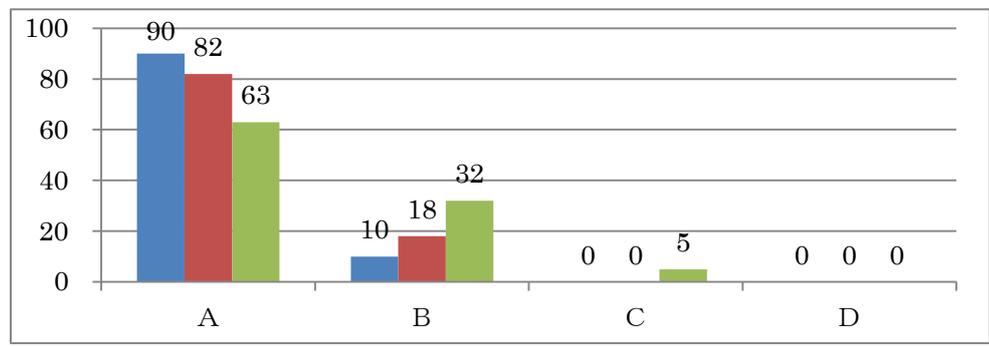
- ・校内の分掌や立場の違いが、保護者や地域からの要望・情報収集の仕方にも影響するのでこのような評価結果になったのだと思われる。担任は、学年部会や家庭訪問、個別懇談などあらゆる機会に保護者や地域の意見を聞くことも可能である。
- ・引き続き学校だよりやホームページを使って、学校の教育活動を地域や保護者に知らせていく。これまでどおりホームページの更新回数を増やし、タイムリーな話題を載せるよう心がける。また、親しみを持てるように内容をさらに工夫していく。担当だけに負担がかからないように、題材の提供や取材の協力を行う。

VI 学校の特色に関して (児童用アンケート結果も含めて)

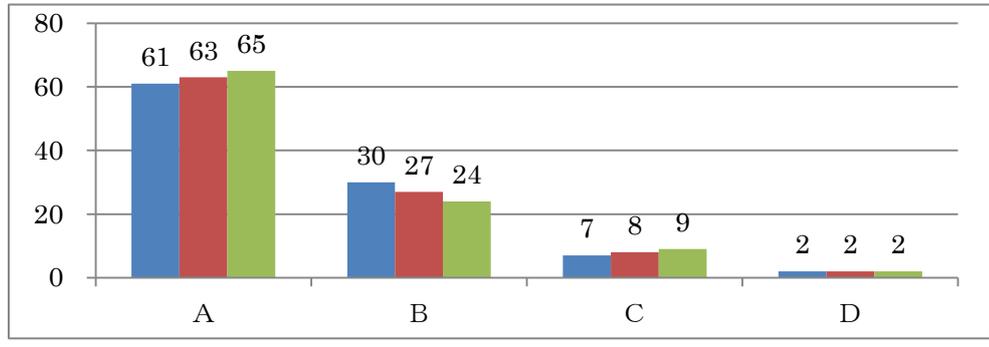
達成状況

・読書活動に関して、教師の「A評価」は減ったものの、読書指導を積極的に行っている(A+B:100%)。児童の読書に対する気持ちも前向きで、約90%の児童は、「読書が好き」と答えており、「A評価」が増えてきている。

教師 VI 3



児童 2 4



・児童26「親子で一緒に本を読むか」については、「A評価」は増えてきているが、まだ「C・D評価」の児童が6割を超えているのが気になる。

・児童17「地域の人と出会ったらあいさつをしているか」では、前回よりA評価が増えて69%となり、市全体よりも6ポイントほど上回った。

改善策

- ・引き続き図書だより等の一部を使い、保護者に対しての情報や意識改革のための資料提供を行う。
- ・夏季休業中に「おうち読書」の取り組みを行っている。
- ・あいさつに関しては、防犯パトロール隊や地区懇談会等、地区や保護者対象の会議の折りに「声かけ・あいさつ運動」の推進をお願いしてきている。大分改善されてきたので、引き続き大人が見本となるよう、あいさつ・声かけ等を地域・保護者とともに協力して行っていく。
- ・児童会の「あいさつ運動」と連携して継続して指導していく。

3 まとめ

〈成 果〉

- ・ 昨年度の学校評価から次の点が課題として上がっている。
 - ①「家庭学習の時間」を定着させることと、「まったくしない」と回答した児童の指導を引き続き行う必要がある。
 - ②「保護者や地域の願いに応えるため要望等を聞く機会などを設け、情報収集を行っている」は、それぞれの立場、分掌で情報収集を積極的に行うことが必要である。
 - ③「学校が楽しい」に「D評価」をつけた児童へのフォローアップの体制づくりをする必要がある。
- ・ ①に対しては、「家庭学習の手引き」を家庭へ配布するとともに、学年・学級懇談や個別懇談等の話題として取り上げ、引き続き家庭の協力を得ながら、学習習慣の定着を図りたい。
- ・ ②については、担任と保護者との日々の電話や連絡帳のやりとりからも情報を得て、スピード感を持って対応していきたい。
- ・ ③については、新年度、各クラスとも学級担任と児童の人間関係を築くことからスタートし、学級経営を行ってきた。また、「Q-U検査」の結果を分析し、各種調査の結果を踏まえ、児童の実態把握に努めた。

〈課 題〉

- ・ 後期に向けて、「家庭学習の時間」を定着させることと、「まったくしない」と回答した児童の指導を行う必要がある。
- ・ V2「保護者や地域の願いに応えるため要望等を聞く機会などを設け、情報収集を行っている」は、それぞれの立場、分掌で情報収集を積極的に行うことが必要である。
- ・ 「たのしい学校づくり」を推進する一方で、学校生活に不安・不満がある児童の把握に努め、情報を共有し指導に当たらなければならない。